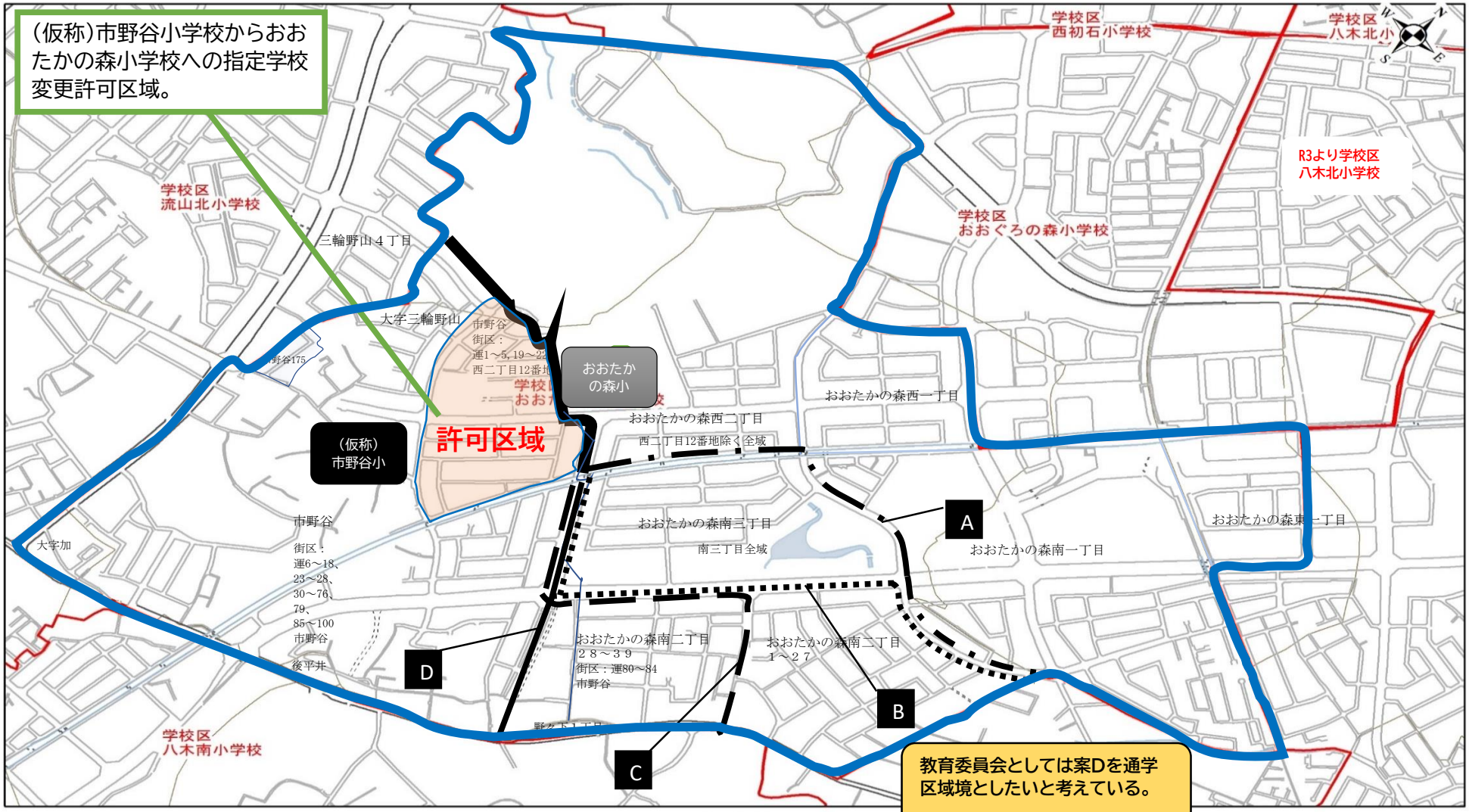
（仮称）市野谷小学校通学区域図（案）

別紙3



教育委員会としては案Dを通学区域境としたいと考えている。

令和6年度	A		B		C		D	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	1,135	36	837	26	645	22	499	16
おおたかの森小	723	23	1,021	32	1213	37	1,359	42
合計	1,858	59	1,858	58	1,858	59	1,858	58

令和9年度	A		B		C		D	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	1,473	45	1,122	35	930	29	776	25
おおたかの森小	634	21	985	30	1177	37	1,331	41
合計	2,107	66	2,107	65	2,107	66	2,107	66

＜学区境線(案)＞

共通

A

B

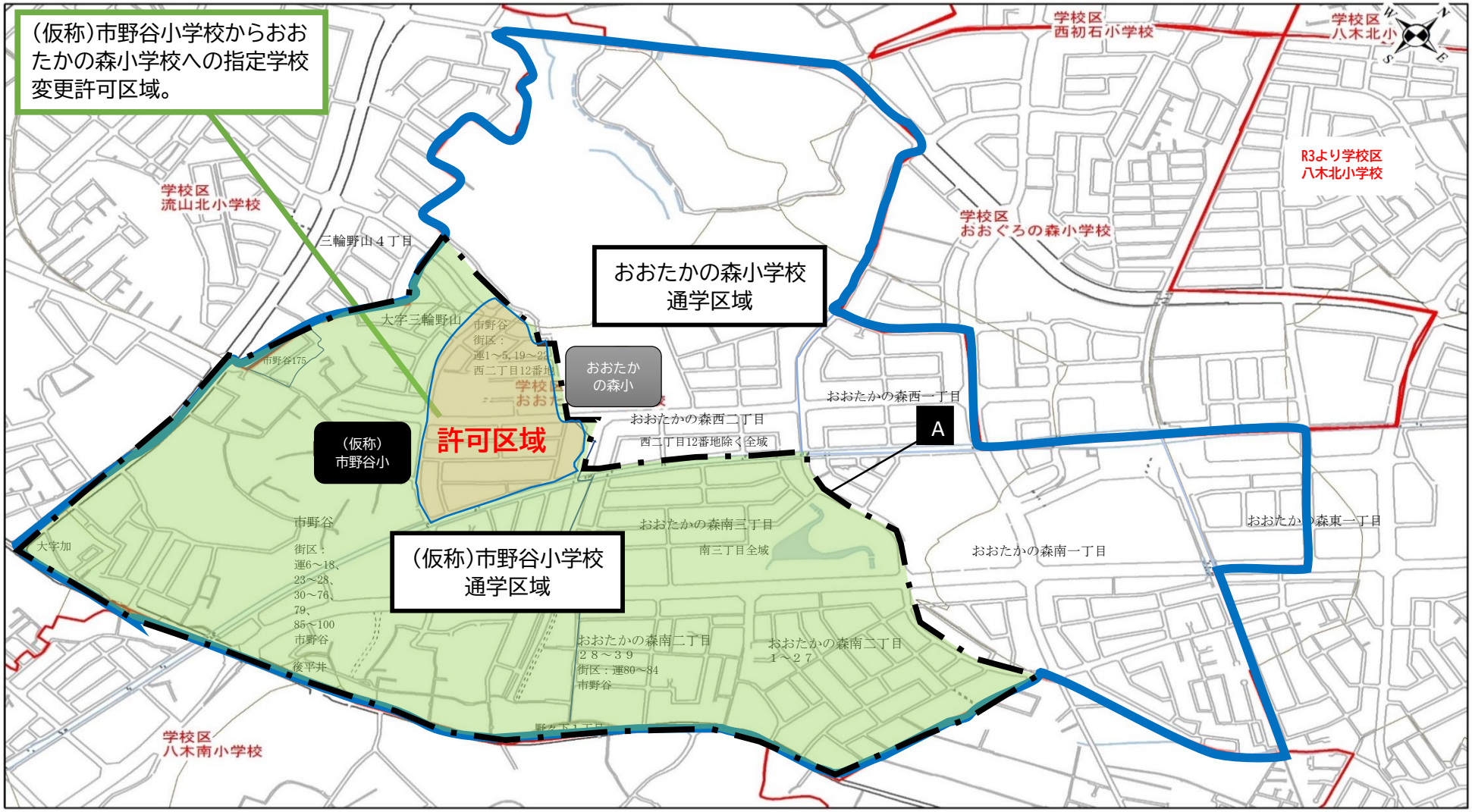
C

D

令和3年度児童生徒数推計及び想定値から令和6・9年度の数値を使用。
※指定学校変更等の児童数及び特別支援学級の児童数については、居住地区が不明のため反映していない。

（仮称）市野谷小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	A	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	1,135	36
おおたかの森小	723	23
合計	1,858	59

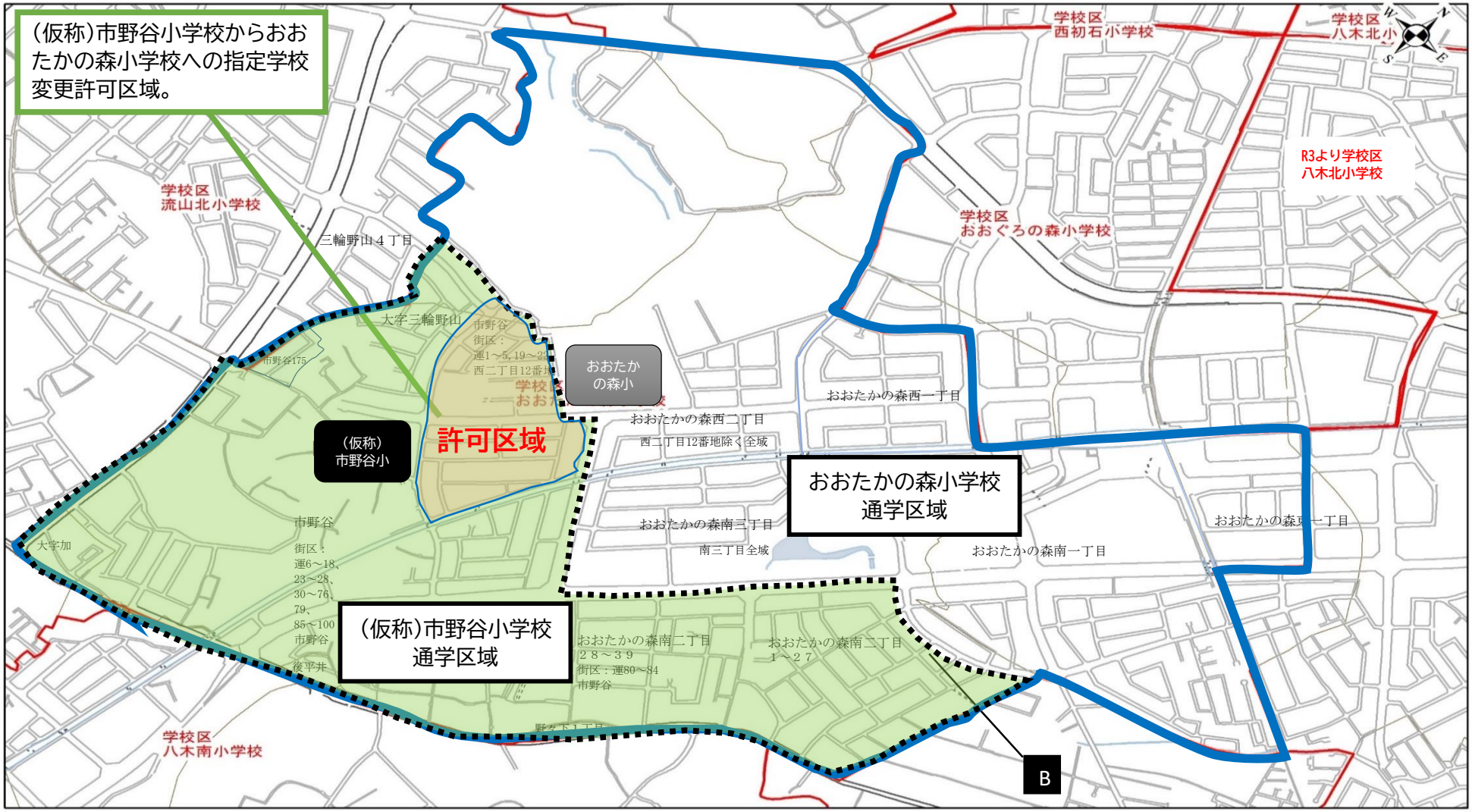
令和9年度	A	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	1,473	45
おおたかの森小	634	21
合計	2,107	66

＜メリット＞
・通学区域の面積のバランスが良い。
・令和６年度時点において、児童数のバランスが良い。
＜デメリット＞
・令和９年度には、（仮称）市野谷小学校の学級数が４５教室まで増える。
・おおたかの森小学校に通学していたときよりも通学距離が長くなる児童が多い。
・今後、（仮称）市野谷小学校が概ね４８学級を超える可能性がある。

A

（仮称）市野谷小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	B	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	837	26
おおたかの森小	1,021	32
合計	1,858	58

令和9年度	B	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	1,122	35
おおたかの森小	985	30
合計	2,107	65

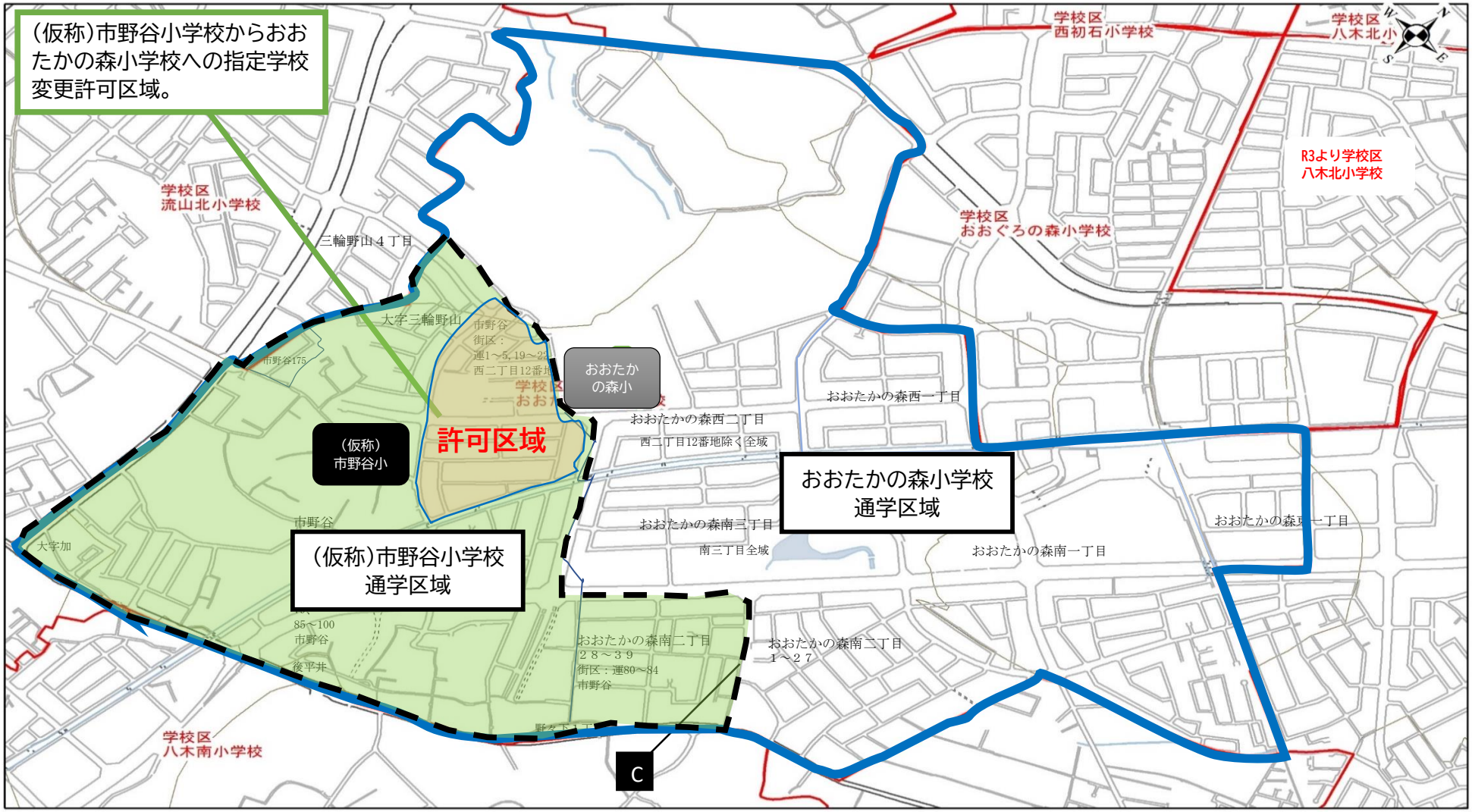
＜メリット＞
・令和９年度までは、児童数・学級数のバランスが良い。
・通学区域の面積のバランスが比較的良い。

＜デメリット＞
・おおたかの森小学校に通学していたときよりも通学距離が長くなる児童がいる。
・今後、（仮称）市野谷小学校が概ね４８学級を超える可能性がある。

B

（仮称）市野谷小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	C	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	645	22
おおたかの森小	1,213	37
合計	1,858	59

令和9年度	C	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	930	29
おおたかの森小	1,177	37
合計	2,107	66

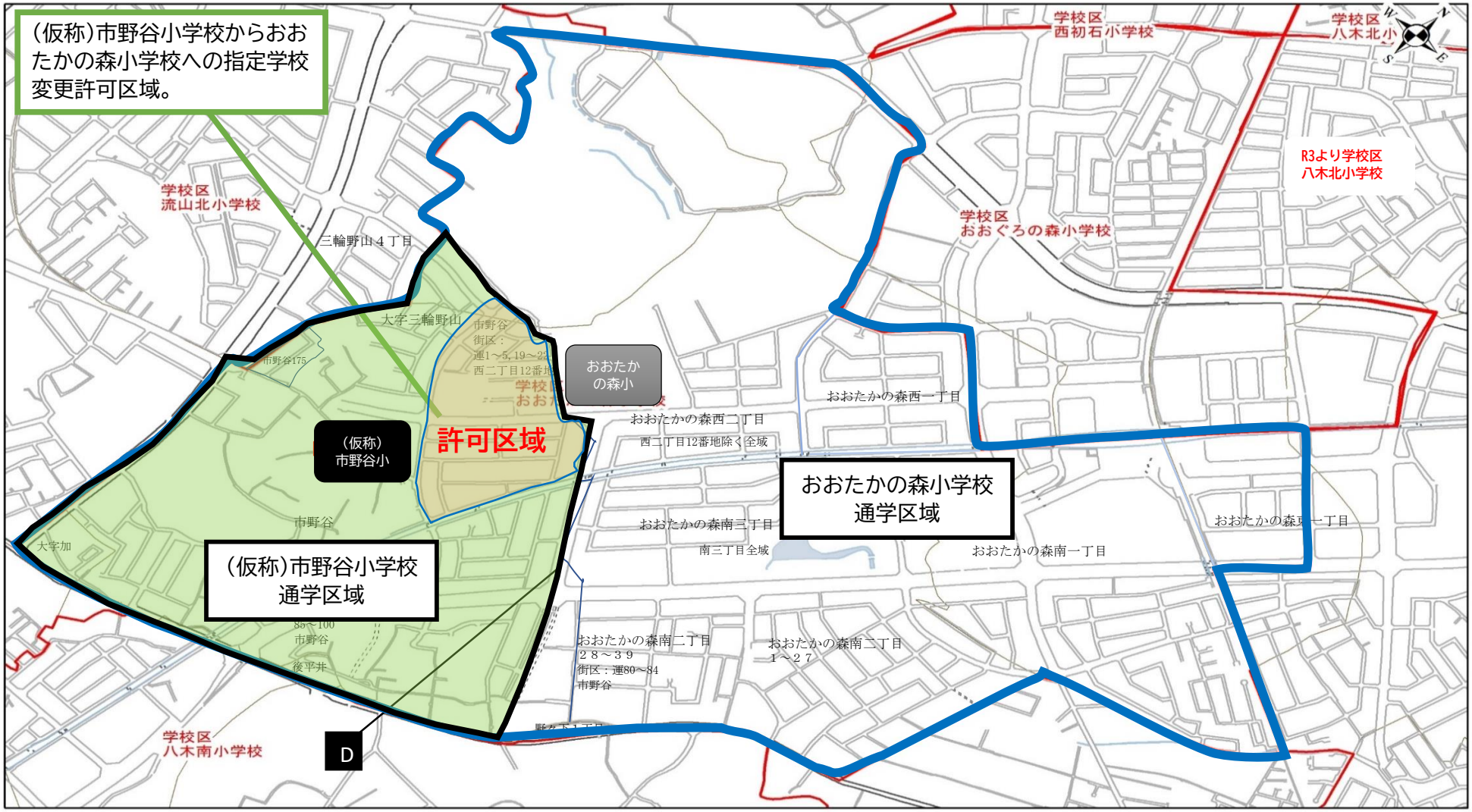
＜メリット＞
・今後、児童数・学級数のバランスが良くなることが想定される。

＜デメリット＞
・おおたかの森小学校に通学していたときよりも通学距離が長くなる児童が多少いる。
・おおたかの森南二丁目の学区が分断される。

C

（仮称）市野谷小学校通学区域図（案）

別紙3



令和6年度	D	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	499	16
おおたかの森小	1,359	42
合計	1,858	58

令和9年度	D	
	児童数	学級数
（仮称）市野谷小	776	25
おおたかの森小	1,331	41
合計	2,107	66

＜メリット＞
・おおたかの森と市野谷で字が分かれる箇所である。
・市野谷地区には未整備地が残っており、今後児童が増加した場合でも、（仮称）市野谷小学校で受け入れが可能である。
・おおたかの森小に通学していたときよりも通学距離が長くなる児童がほぼいない。
＜デメリット＞
・令和６及び９年度では、児童数・学級数のバランスが良くない。

D